

「あなたの家族の遺骨を米軍基地建設に使ってもいいですか？」

中山吉人

1) ホープスポット

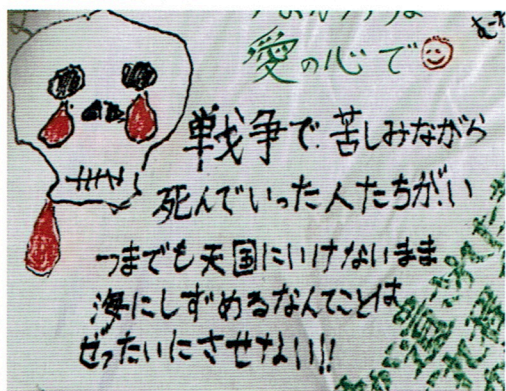
辺野古・大浦湾は世界でも110箇所ほどしか認定されていない日本で唯一の「ホープスポット」と呼ばれる海域です。小さな面積におよそ5300種類以上の多様な生物と、262種類の絶滅危惧種が存在し、74000群体のサンゴが生きているとのこと。「ホープスポット」とは、世界的に有名な海洋学者のシルヴィア・アール博士が提唱している運動で、世界で最も重要な海域を「ホープスポット」に設定し、「保護の網」をかけることを2009年から実施しています。

日本の世界自然遺産である、知床半島、白神山地、小笠原諸島、屋久島より、生物多様性が豊かなこの海を埋め立てて米軍基地を建設するということは、あまりに愚かな行為です。

2) 魂魄の塔

魂魄の塔は1946年2月、島尻郡真和志村(当時の住所)住民によって建てられた慰霊碑で、慰霊碑の現在の住所は糸満市米須となっています。沖縄で最も早く建立された慰霊碑です。

1945年の敗戦後、この地域には至る所に戦争で亡くなった人たちの遺骨が散乱していました。そこで真和志村村長が住民に呼びかけ、遺骨収集が始まりました。翁長前知事の父親だった助静氏(当時糸満高校真和志分校の校長。後に村長)も生徒を連れて遺骨収集に参加しました。数年間の遺骨収集で3万5千を超える遺骨が納められ、魂魄の塔に納められました。その後、1979年、大部分の遺骨は摩文仁の丘に完成した国立沖縄戦没者墓苑に転骨されました。



小学生が、玉城デーン知事に渡した文章

この地域は摩文仁の丘も含め、沖縄戦の激戦地になった場所です。日本軍が首里城地下の司令部を放棄して南部に撤退し、住民を巻き添えにした激しい戦場です。沖縄で最もたくさんの遺骨が眠る戦場です。そしてひめゆり学徒に象徴される21校の学徒隊の多くも、この沖縄南部で亡くなりました。21校の動員数、生徒約1923名、先生93名。戦死者、生徒980名、先生37名。

この激戦地には、今もたくさんの遺骨が眠っています。日本と沖縄の軍人だけではなく、朝鮮半島出身の人たちや米兵もたくさん亡くなっています。沖縄の民間人の遺骨もたくさん眠っています。沖縄戦で亡くなった民間人は10万人近いのです。

3) 土砂採掘鉱山と遺骨

この激戦地、糸満、八重瀬には、20以上の鉱山があります。その一つが魂魄の塔のすぐそばにある「熊野鉱山」なのです。新しい鉱山です。よりによって魂魄の塔のすぐそばです。遺骨が眠っている可能性が非常に高い場所です。すでに遺骨は発見されています。

この沖縄南部は全体が戦跡です。全体がお墓と同様です。遺骨がまだまだたくさん眠っています。その遺骨を収集することなく、新しい米軍基地建設のために、辺野古大浦湾を埋め立てるために、土砂として使えますか？

法律上遺骨は国が収集することになっています。しかし、政府は収集活動をしていません。



魂魄の塔の近くの熊野鉱山

遺骨混じりの土を米軍基地建設に使えますか
戦没者をもう一度殺すことになりませんか
遺骨を、英霊・御霊を冒瀆していませんか
戦没者を蔑ろにいませんか
貴方の遺族のお墓が米軍基地建設のために
自民党と企業の金儲けのために
遺族の許可もなく荒らされても平気ですか
基地賛成反対以前の問題です
人道上、許せますか。